

114
A3823



去九月廿五日閣下幸ニ通行免狀一通ヲ下賜
 相模伊豆駿河遠江信濃甲斐及ニ武蔵ノ諸州
 ヲ通行スルノ自由ヲ得セシメ各州所在ノ曠野
 并空漠タル原野トヲ篤ト試験シ其牧羊ニ便ナ
 リヤ否トヲ實際目撃致シ度宿志ヲ達セシメ右
 試験シタル實際ノ事跡ヲ外務省へ具狀スヘキ
 旨敢テ允許ヲ忝フス何賜カ之ニ若カン既ニ此
 程相伊駿ノ三州ヲ經過シ租^租荒漠タル山野ヲ試
 験仕候尤右試験ヲ手始メハ取初相模國本賀村

大正十一年四月
 隈 侯爵邸 寄贈

ヨリ取り懸りたり石木賀村ハ早川源ヲ箱根湖水ヲ
發シ小田原ノ入海
注ノ右ノ方ニアリ其左ノ方ニアル宮城野邨ヲ
距ル遠カラス宮城野邨ヨリ仙石ヲ距ル其間凡
ソ一里半惣テ其間ノ土地ハ更ニ人家ナク滿地
只植物ノ繁茂スルノミ就中日本ニテ茅ト唱フ
ルモノ取モ多シ全体右茅ハ(リードカナリイ)名州小
麦共(パンパス)名草ノ三種トハ稍相近キモノナリ
右三種ノ内(パンパス)草ハ獨リ南亞米利加ノ地
方ニ生スルモノニテ取モ之レト相似タリ扱茅
ノ高サハ二(ヒート)ヨリ乃至八(ヒート)モアリハ

月中華サキ九月中ニ至リ其種落種頗ル小ナ
リ日本中ノ各所ニテハ茅ハ重ナル草柄ニテ之
レヲ刈取り能ク枯レタル上用ユル由扱又宮城
野邨ト仙石邨トノ間ニハ殆ント一里四方ノ廣
サ程モ善キ牧場アリ其地タルヤ平坦ノ處モ又
小高キ處モアリ冬分ニナリ畜産ノ為メニ圍場
等ヲ設クルニ充ナル場所柄アリ又早川ノ右
ノ方ニテ仙石邨ヲ少シク離レ仙石原ト唱フル
處アリ其地平坦ニシテ凡ソ八百坪一坪ハ我カノ廣
四段十八分
サモアリ地味ハ黒クシテ植物ノ生長ニ宜シ西

ハ川流畧ラナシ南ハ小丘アリテ草木叢生シ羊
杯ノ遊行上下スルニ格別嶮ナラス右ノ小丘モ
北方ニ至リテハ草木モ無ク且低卑ニシテ坂路
亦平坦ナリ東ハ全ク閑キ本賀邨ノ南ニアル高
原ノ處マテ凡ソ二里ノ間屈曲高低一線ノ小路
アリ彼此相通ス右本賀ノ南ナル高原ニハ草木
ノ各種生長シ地味頗ル美其廣サ凡ソ半里ノ平
方アリ東ハ森アリ以テ塚ヲナセリ夫レヨリ西
仙石原ノ塚ニ在ル川流ノ處マテ相距ル凡ソ二
里北ハ早川ヨリ南(ウタゴヘ)ノ頂上マテ一里半

ノ處ニテ凡二十里英法ナリ平方斗リノ場所ヲ
認メタリ其場所多クハ牧羊スルニ利アリ又(ニ
ノヒラ)ヨリ蘆ノ湯マテノ間ニアル小山ハ格別高
カラス荒蕪ノ景色モ無ク草能ク繁茂ナセリ扱
仙石ヨリ箱根湖水マテ凡ソ一里半ノ間更ニ一
戸ノ人家無ク又耕作セシ土地モナシ夫レ仙石
邨ノ地形タルヤ南北二山ノ間ニ在リ其南ノ山
脉ハ(ウタゴヘ)ト唱ヘ箱根山ノ續キニシテ直ニ
東海道ノ北ニ當ル又北ノ方仙石谷ニ塚スル山
脉ヲハ(シカタキ)ト唱ヘ相駿二州ニ畧スル山脉

ノ一部トス又仙石ノ真地ニ當ル小山ノ腹側ハ
凡ソ半里計リノ間枝木共灌木等多ク生シ夫レ
ヨリ頂上迄ハ植物繁生シテ頗ル美觀ヲナセリ
其山脉ハ箱根湖水ノ西北ニ至リテ盡ク其處ニ
ハ二三百年前ノ建築トモ覺ホシキ地中ノ掘割アリ
テ其路暗黒ニシテ且長シ而シテ仙石邨ヨリ
湖水マテノ谷間ハ其廣サ凡ソ半里其地味美ナ
ラス就中湖水ニ濱スル所ノ地質ハ磊塊泥炭ノ
如ク且孔釜ノモノ多シ保シ生長スル植物ハ其
種類亦多シ然ルニ右谷間中央ノ地面ハ其質美

ニシテ良草嘉卉滿面ニ繁茂セリ扱又コノ同シ
谷間ニテ駟ヶ嶽ノ麓ト(ウバコ)ノ真北ニ當ル所
ノ地質ハ頗ル絶美ニシテ滿地生スル所ノ草ハ
茅ヲ始メ其他ノ種類亦多シ其廣サハ左右兩側
ノ小山等ヲ籠メ凡ソ六里平方ノ坪數アルヘシ
又箱根湖ノ西北ニ嶮岨ナル一小山
十五丁程ノ小路アリ此道ハ掘割ノ口ヨリ起リ
西南ノ谷ニ出ル道路ニ通ス夫ヨリ湖水ノ西ニ
在ル小山ノ脉ニ沿ヒ東南ノ方ニ於テ東海道ニ
通ス其里數凡ソ三里間ニシテ其廣サ平均一里

半ノ場所アリ其西北ニ當リ小山ノ腹側ニハ芝
艸ノ生長スル處モアリテ夫レ是レ利益ノアル
ヘキ處ヲ積リ見ルニ凡ソ二十五里英法十平方モ
アルヘシ且湖水近傍ノ小山ハ險阻ニシテ芝草
ハナケレトモ他ノ植物繁茂ナセリ全体此場所
ハ往々ニ小高キ處アリテ或ル場所ハ谷間ニア
ル小山ノ間ニアリテ又小キ谷ヲナシ或ハ(バシン)
ヲナセリ前條山脉ノ東南ニ際スル處ヨリ豆州
(池ノヤマ)其相距凡ソ四里其間更ニ人家ナク
箱根湖ヲ離ル、凡ソ半里ノ處ニテ東海道ノ東

南ニ當リ廣漠タル山野アリ諸草生植ニ牧羊最
モヨシ全体(イケノヤマ)ハ風光モヨク且牧羊スル
ニハ餘程手廣ク其小山等嶮嶮ナラスシテ又自
然風除ケトモナルヘキ凡ソ小山等數多アリ又
一小湖水アリ右湖水ハ西北殆ント(ミシマ)ト反
對セル處ノ小山ト東南(ワダヤマ)ノ間ニアリ惣
体此處ノ廣サハ右湖水ノ見ヘニ徹スル處丈ニ
テ凡ソ一里ノ平方アリ此レヨリ熱海マテ凡ソ
二里半モアリテ其間三分ノ二以上右(ワダヤマ)
共東北小西南ニ面スル小山ニ草木皆生長セリ

三島ニ際スル池ノ山ノ北ニアル小岳等ヲ始メ
熱海ヨリ三島へ出ル道ノ東ニ在ル小山其他熱
海ヨリ北九半里ノ所ニアル小山并前条ノ道路
ト他ノ山へ出ル小路トノ間其坪數ハ殆ント四
十平方里ノ場所アリ箱根ヨリ熱海へ行ク途中
湯ヶ原邨ノ真北ニ當リ又牧羊ニ宜クシキ地脈
アリテ其邊ノ小山ハ少シク峻ナレ氏箱根ノ近
傍ニ生長スル草ヨリモ一層細美ナル草アリ又
伊豆山邨ノ上ニアル山脉ハ頗ル廣漠タル牧
羊ノ場所アリテ其處并其近傍ノ小山ニハ冬夏

ノ間三千頭ノ羊ヲ放テ牧養スヘシコノ處東ニ
面シ全ク西北ノ風ヲ防キ實ニ最上ノ土地柄ニ
テ冬分モ降雪杯頗ル稀ナル由又熱海ノ北九ソ
一里半ノ處ニ(アイノハラ)ト唱ナル原アリ其廣
サ殆ント一里平方程ナル善良ノ牧羊場ナリ小
山ハ樹木無ク打テ開ケ地面平ラカチラスト雖
氏中ニハ耕作スルニ格別ノ嶮阻ナラサル土地
アリ氣候ハ伊豆山同様寒カラス雪ハ十二月ノ
初ニ降り始メ二月ニ至ル由其外伊豆ノ國ニテ
廣漠タル處モアル由ナレ氏巡回ニ違アラス全

体豆州ハ山國故人民モ各所ニ散居ノ丁ナルハ
シ併シ荒漠ノ土地ハ能ク草ヲ生シ羊ノ大數ヲ
牧スルニハ連上ニ述ヘタル如ク至極ヨロシキ
場所柄多シ駿州ニテハ富士山ノ西側ハ凡ソ試
驗セリ其次第左ノ如シ

(オミヤ)ノ町ヨリ凡ソ三里ヲ隔テ(カミテムラ)
ノ少シク上ニ當リ長サ三里幅一里計リノ谷間
アリ此谷ノ北界ヨリ足高山マテ凡ソ六里ノ隔
アリテ其間ノ山脉ハ少クトモ平均一里半ノ幅
サアリ此邊ノ地味ハ頗ル美ニシテ美州滿地ヲ

拖ビ野花燦々タリ右山脉ノ中央ニテ凡半里平
方ノ處ハ覆盆子荆棘等澤山ナリ併シ地味ハ非
常ニヨク右等ノ荆棘ヲ取除クルモ容易ナルハ
ニ全躰此近傍ニテ最モ好キ土地ハ(ヤマムラ)ノ東
南凡ソ一里半計リノ處ニテ丁度(シタキタイクボ)
ト唱フル場所ノ上ニアリ其表面ハ高低上下平
カナラス往々小丘アリ自然ニ小谷ヲナセリ且
草ハ短カク奇麗ニシテ青草交リニ種々ノ花咲
キ實ニ山間ノ好風景ヲナセリ又富士ノ山麓ニ
際シ大ナル森アリテ一切日本ニテ名高キ樹木

繁茂ニ如何ナル建築ニ用ヒテモ麗村之シカラ
サルヘシ既ニ予牧士小屋並敷多ハ羊ヲ牧畜ス
ヘキ場所ノ圖面ヲ取レリ之レ他日必此所ヲ用
ユル事アルヘシ又西ノ方富士足高ノ山脉ト東
ハ富士足高ノ堺ニ接シ凡ソ四里ノ處ニ荒漠タ
ル大野アリテ其間道路ナシ又足高山ノ東ニヨ
リ西北ノ向キニテ富士ニ沿ヒ(シバシリ)ヲ通シ
テ流ル、細キ野川ヲ渡リ其川ヲ一里半程過キ
テ此處亦牧羊ノ土地アリ夫レヨリ又東ニ當リ
足高山ニ沿ヒ凡二里ノ處ニハ長サ七里幅ハ平

均一里半ノ土地アリ又(ゴテン)ヨリ(ブリジ)邸ニ
通シタル路ニ沿ヒ(ミクリヤ)ノ内ニテ(イタツマ
邸ト云フ處ニテ午廣キ牧場ヲ認メ又米國杯ニ
テ殊ノ氷貴重スル一種ノ柙ヲモ亦發見セリ
キセ川ノ左岸ニアル(コヤマ邸ニテ(ジグクキ)山
脈ノ北ニアル小山ハ漸々ニ低下セリ此山脉ハ
北方仙石ニ界スル所ノ
(ゴテン)マテ一線路ノ通スルアリ凡テ右ノ坂路
ニハ芝草多ク其他ノ諸草モ猶多シ此邊ノ牧場
ハ上ニニ記載シタルモノヨリモ少シク廣カル

一、右兩所共相對ニ其界ハ(ガレン)ノ狹キ谷ニ
テ區別フルノミ

連上記載シタル土地ノ平方ヲ筭計スルニハ此
ノ處口ノ彼ノ處マテ里數間隔ノ長短等ハ其土
人ノ言フ所或ハ地圖等ニ一任セリ今熟々考フ
ルニ連上ノ廣漠タル土地ハ只(ガレン)ヲ狹谷ニ
テ間斷アルノミニテ凡テ一脈ニ連續セシメテ
信用セリ其證ニハ今又旅行ヲナサンニハ先ツ
最初ニ熱海ノ北半里程ノ隔タリニアル原野ヲ
通り過キ夫レヨリ行クテ二里池ノ山ニ至ル又

夫レヨリ箱根湖ノ西ニ塚スル小山ノ南マテ四
里ノ隔リアリ夫レヨリ平地或ハ小山等ヲ經過
シ三里ノ間北ニ行クハ右湖水ノ北ニ達スヘシ
此レヨリ早川ノ左岸ニ沿フテ仙石谷ニ下レハ
其經過スル凡一里半ナリ此處ニテ(ガレン)マデ
通スル線路ハ斷ヘタリ尤(ガレン)迄ノ隔リハ凡
三里ナリ右(ガレン)ノ谷間ヲ全ク通行スルトキ
ハ一里内外ノ里程アルヘシ倍又(シバシリ)ノ前
面ニ當リ凡ソ五里ノ間モ東ニ流レテ曠野アリ
夫ヨリ富士足高ノ谷間ヲ通り過キ西ニ過クレ

ハ石足高ノ西方ニ出テ五里以上ノ里數モアリ
又夫ヨリ(カミヲノハラ)ノ北界迄ハ少ナクトモ
六里ノ里數アルヘシ右ノ如ク熱海ヨリ旅行ヲ
始メ(カミヲムラ)ニテ巡行スレハ凡ソ三十一里
餘リノ隔リ即英法里凡ソ八十里餘ノ里程アリ
其内(ガレン)ノ谷間凡ソ二里程ノ場所ヲ除キ其
外何方ニテモ更ニ住家ヲ見サルナリ
儲連上試験セシ地方ニハ凡一百万餘頭ノ羊ヲ
牧養スヘキ見込ナリ

地質並草木ノ質ヲ説ク

富士ノ山麓凡ソ六里以内ノ谷地ハ抑上古ノ昔
ハ燭地皆火山ヨリ吹キ出ツル燒石ニテ掩ハレ
シモノナルヘシ然レ處右燒石中ノ諸原素盡ク
熔解シテ後植物自然ニ生長シ右植物又枯衰シ
テ地味漸ニニ形ヲ變シ遂ニ黒土ヲ掩フニ至リ
抑右ノ如ク數度ノ改革ハ世俗ニ所謂天神天ノ
浮橋ニ立テ海中ニ御劍ニ探リ玉ヒ其滴レヨリ
遂ニ此日本島ナル一美萬ヲ現出セシ時代ヨリ
ニテ漸ク改革ヲ歴テ當時ニ至リテハ豊饒富有

ニシテ滿島肥沃ナラサルナシ凡テ諸國ニテ火
山石ノ多キ地味ト同様ニ右山麓ハ地味モ頗ル
肥沃ニシテ最上ノ收納ヲナスベシ全縣此邊ノ
地味ハ固黒土ナレハ植物ノ種藝ニハ宜シキ地
質ナリ或ル場所ニテハ土塊ノ凝結ニテ泥炭ノ
如ク或ハ孔アリテ以前ハ沼池ニテモ有りシヤ
ト覺シキ處モアリ乍去現今ハ追々植物枯衰シ
テ其土地ト混和シ穀類ノ植付ケラナサハ頗ル
生植ナスヘキ地トナレリ或又米國杯ノ木棉ヲ
立テ適當ナルベシ

艸

村方接近ノ場所ニテハ何艸ニテモ刈取リ草糞
ト唱ヘ用ユルヲ見レハ諸方共草ノ品類ヲハ詳
ラカニセサルヲナルベシ夫レ茅艸ハ澤山ナル
艸ニテ幾度ニテモ刈取ル毎ニハ速ニ生長シ且
追々ト素性モ善クナルモノナリ凡水ノ一滴タ
リトモ其内ニハ幾千ノ極微虫ヲ保ツカ如ク土
地過モ亦自然ニ種物ノ無量ヲ含有スルモノニ
シテ其最初ニ生スル艸ハ皆粗野ナル雜艸ノミ
繁茂シテ土地ヲ蔭ヒ善艸ハ其下ニ墾屈セリ併

シ造物者ノ妙巧ニ依リテ右等ノ雜草ハ速ニ生
長シ其生長シタルモノヲハ之レヲ刈リ或ハ之
ヲ踏ミ付ケ杯スルカ最モ好キ手立ニテ夫ヨリ
追々ト善草芽立ち生長スルモノナリ其證據ニ
ハ路傍ニ生長シテ人ノ為メニ刈リ取ラレ或ハ
踏ミ付ケラレタル草ヲ見ヨ全ク新タナル草地
トナリ漸ク純良ナル美質ノモノ生長スルモノ
ナリ右様ノ場所ノ草ヲミテ篤ト注意スルトキ
ハ其ノ國々ニテ生長スル所ノ草ノ原質ヲモ判
談シ得ルヘシ

當地ニテ見當リタル新ニキ種類ハ(スビー)ルガ
ラス)年ニ生長並奇麗ニシテ葉ノ廣キ牧草或ハ
狐尾草等ノ種類ニテ蠶豆ノ類モ各所ニアリ
凡テ日本國ニテ荒蕪タル土地ニハ右等ノ種類
繁茂スル故ニ其國ノ美質並地味ノ膏腴ニシテ
諸物ノ生殖スル前古未聞地質タルヲ顯ヲハサ
シ為メニハ牧羊ノ事業ヲ要スルニ在ルノミ且
日本ノ諸島ニテ生長スル草木ハ一ケ年ノ内九
ヶ月間ハ青々トシテ曾テ枯衰ノ色ナク既ニ當
月五日海面上凡四千(ヒート)ノ高處ニテ見事ナ

ル野州ノ花ヲ得シテアリ然ルニ西洋諸州ニテ
昨今ノ時節ニハ最早多少ノ降雪アルカ或ハ陰
霧杯ニテ野州ニ盡ク萎枯セリ當國ニテハ一々年
中四分ノ一文ケ乾食物並小屋等ノ用意ヲナス
ノニニテ是ルニ然ルニ歐米兩國中ノ諸方ニ
テハ半々年ノ間ハ小屋ヲ設ケ收養セサルヲ得
サルナリ日本南海ノ諸方ニテハ收養ノ場所ハ
冬分タリトモ州木ノ生長サハアレハ牛羊ヲ
氷ニ放テ決シテ小屋等ノ設ケナクトモ妨ケ無
ラシテ更ニ疑ヒテ容レサルナリ惜又斯ニ一談

話アリ序ナカラ記載スハ之先頃沼津ノ近傍ニ
テ田路ヲ通り過キニトキ偶々二人ノ農夫アリ
テ稻ヲ刈リナガラ路上ハ一種ノ草ヲ擲ケ上ル
様子ナリ能ク注意セシニ右ノ草ヲハ其種ヲ蔣
キ枯レタル上ニテ刈リ取リ以テ牛羊ノ食ニ供
セハ欧米諸州ニテ養植ナシタル草ヨリモ遙カ
ニ上等ナルニト不圖念頭ニ浮ミケリ依テ其
草ノ仔細ヲ問ヒシニ右二人ノ農夫共只其稗ク
ル各ノミヲ知リテ其外何タル仔細ヲ語ラス依
テ一層推シ尋ネシ處遂ニ(ラトヤ)ノ角太ト云フ

人右ノ稗ヲ用ヒ我カ見込通リ貴重ナル植物ノ
由ラ確定ヒシ趣聞斜ニタリ右稗ノ種ハ外種ヨ
リ其穀ノ多キヲ十倍セリ且其葉或ハ莖ノ柔ラ
カニシテ且計多シ如シ日本モ牧羊ノ国トナリ
ナリ稗ハ牛羊馬ノ為メニハ重ナル冬分ノ食物
トナリヌベシ

日本ニテ羊ノ生活及蕃息如何ノ説

是迄内日本ニテ畜養スル羊ハ皆外國ヨリ輸入
ノモノニ係リ殆ント一切ノ羊斃レ死セサルモ
ノ少ナキカ故ニ決シテ日本ニテハ生活モセス
又蕃息モセサルヘシトハ普通ノ説ナレ比余ニ
於テハ敢テ此説ニ隨ハス更ニ又一説アリ此度
駿州ヲ旅行セシ時初メテ羊ノ死ニ就テ原由ヲ
穿鑿ナセリ右ハ羊ノ食スル草ニ毒アルニ非ス
又州ヲ培養スルノ道缺ケタルニモ非ス只羊ヲ
養フノ方法如何ニ在ルノモ全体牧養ノ方法

頗ル善ナラス其善ナラサルヨリ遂ニ病ヲ醸成
スルニ至ル如レ右ノ病ニ罹ルトモ其初ノ速ニ
治療ヲ施コセハ死ヲ免ル、ト又容易ナルヘシ
曩日沼津ノ近傍ニテ百四十頭ノ羊ヲ養フ一人
アリ然ルニ百四十頭ノ内僅カ六頭ヲ餘スノ外
ハ皆右ノ病ヲ受ケ早治療モ行届カスレテ盡ク
死セリト聞キ其残り六頭ノ有様ハ如何アラント
行キ見ルニ何レモ右ノ病ヲ受ケ殆ント斃ル、
ノ弊ニナル故ニ早ク手當ヲ施スヘキ旨忠告
セシニ依リ漸ク三頭丈ハ見込通り取り留メ死

ニ至ラザリレナリ依テ右ノ羊ヲ養ヒ置キ場
所ヲ吟味セシテ敢テ毒アル艸杯少シモ看出サ
ザリシ全体毒アル草ヲハ僅カ一莖ニテモ食ス
ルトキハ直ニ死ヲ来タシ兩三日ヨリ永ク生存
スルトハ決シテ知テヤル所ナリ候シ同所ニテ
ハ數ヶ月間モ生存セル羊モアル由右ハ食物中
ヘハ少シモ毒料ノナキトハ確證アリ余カ曩日
ヲトヤノ角太氏ヲ訪ヒシ兩三日前同氏事務同
表ヨリ羊九頭ヲ買求メシガ右ノ羊ハ静岡ニテ
既ニ三ヶ月程モ飼ヒ置キシ由右ノ内牝羊一頭

アリテニケ月程ノ子羊ヲ連レタルモノアリ右
 ノ子羊モ能ク生長ナセリ日本ニ於テ種々ノ草
 アリテ余輩ノ曾テ見馴レサル植物ノ種類何位
 モアリ就テハ右等ノ草羊ノ食シテ可ナルヤ否
 ヲ臆ト辨知シカタシ然ルニウトヤノ角太氏ノ
 處ニテ好機會ヲ得右等ノ諸草ヲ寄セ集メシニ
 実ニ珍貴ノ種類多カリシ之ヲ以テ羊ニ食ハ
 シタルニ何レモ能ク食ヒテ満足ノ体ニ見ヘケ
 リ今日本ノ山野ニテ牛馬ヲ養フニ自然生スル
 処ノ草ヲ刈集メ之ヲ枯ラシメ以テ食ハシム

ルニ牛馬ノ有様頗ル美ナリ今左ニ掲クルモノ
 ハ牛羊馬ノ食フヘキ諸草ノ割合ナリ

馬ノ食フ草ノ種類	其数二十
牛ノ食フモノ	同 三十
羊ノ食フモノ	同 六十

之レニ依テ觀レハ羊ハ牛馬ノ能ク蕃息セサル
 所ニテ牧養スル共能ク生活蕃息スヘキ必然ナ
 リ然ルニ日本ニテハ未タ牧羊ノ經驗モナク実
 ニ是迄牧養ノ方法モ立タス前條ニモ記載セシ
 如ク余カ巡回セシ富士ノ山麓等へ牧養シテ其

好々食物ヲモ食ハレメスレラ汚穢ナル國へ閉
キ込メ置キ食物ノ配與正シカラス且其食物一
種ノミニテ且上品ノモノナラス斯クシテ如何
ニ生活スルノ便リアランヤ就ラハ右等ノ如キ
取扱ヒテ度ケ羊ノ斃レ死スルハ更ニ驚クヘキ
トナラ^子トモ夫レ程迄ノ悪シキ取扱ヒテ度ケ
ナカラ矢張り生ケル丈ケノ時日ヲ活ケ延ビル
コソ嘆ニ恠ムヘキトナリ是迄日本へ輸入スル
羊ハ通例支那産ノ種類ニテ世界中最下等イモ
ノニテ其性強壯ナラス其毛ノ目方モ一(ポイント)

乃至一(ポイント)半ニ過キス猶其上ニモ毛ノ質頗ル
劣レリ然ルニ他ノ種類ノ毛ハ其目方モ六(ポ
ン)乃至十(ポイント)マテノモノ多クアリ右等ノ類
ヲ方今日本ニテ牧養ナシハ殆能ク蕃息ナスベ
シ斯クテ最モ適當ナル羊ノ種ヲ撰ミ其其他ノ
事ニ付篤ト注意スルト日本ニテ最モ肝要ノト
ナリ第一時侯ノ寒暖地味ノ良否若牧州ノ善惡
ヲ能ク計ルヘシ或ル種類ハ計多キ州ヲ嗜ミ或
ルモノハ然ラス又或ルモノハ低キ土地ニテ蕃
息シ或ハ高キ地面ニテ食物少ナクシテ生活セ

ルモノアリ且各種其趣ヲ異ニスケメー
羊ノ一種ハ最貴重スヘキモノニテ日本ニテハ
何方ニテモ能ク生殖スヘキナリ

官地ノ事

日本國ノ官地ハ耕作シタル田地ノ坪數ト比較
スル中ハ非常ニ廣大ナルモノナリ扱テ牛肉羊
肉及物獸皮滑皮及獸脂等ノ如キハ畢竟皆州ヨ
リコソ生スルモノナレハ今(ガラス)草ト云フ辞
ハ只連上羊牛肉其他ノ異名ニ用ユルナリ當時
日本ニテ輸入スル毛製ノ品物及綿交リノ獸毛

等一ケ年ノ高五百萬疋以上ニ至ルトノ由横濱
税関ノ一官負タル(ウヒルセイシヘル)民ノ咄ナ
リ今前条ニ述ヘタル廣漠タル官地ノ草ヲ収納
シ右ヲ以養收ノ道ニ利用セハ牛羊ノ價ヒ一億
五千萬疋以上ニ至ルヘシ右ノ積リ高ハ西洋諸
國ノ統計表ヲ以テ比較セハ自カラ明瞭タルベ
シ總テ右收養ハ勿論收養スル土地ヘモ相當ノ
税金ヲ課シ羊毛ヲハ製シテ及物トナサハ日本
全國會計ノ不足ヲ補フノミナラス人々亦一生
ノ間新ニ生産ノ基ヒヲ立ツヘシ凡ソ一國中ニ

テ新ニ方法ヲ設ケ夫レカ為メ全國ノ歳入増加
スル片ハ其割合ニテ一般ノ貢税ヲ減スルモノ
ナリ今日本ニテ政府ノ総歳入高凡ソ五分ノ四
ハ皆窮民ヨリ納ケルナリ依テ國家ノ富强ヲ致
ス程ノ新法ヲ發明スル片ハ夫レニ貢税ヲ課シ
務メテ窮民ノ貢賦ヲ輕クスベシ右ハ各國政府
ニテ最モ注意スル所ニテ國家ノ一大要務ナリ
万一此要務ヲ缺キ重ク窮民ニ課スル片ハ遂ニ國
家ノ富强ヲ致タス能ハサルハ勿論全國ノ騷亂
ヲ起スヘシ方今日本ニテ交易品トナリタル茶

花生絲ノ外耕作上ノ產物ヲ以テ百年前ノ產物
ト比較スルニ格別ニ増加セルトハ倍ニ難キナ
リ若シ耕作道開ケサレハ随テ國ノ富强ハ増加
スルモノニ非ス然ルトキハ到底畜產ノ道ヲ開
カズンバ日本國ニテ廣漠タル豊饒ノ土地ニ永
世荒蕪ノ姿トナリ自然耕作モ行キ届カス大ニ
進歩ノ害ヲナスヘシ何故ニ西洋諸國ノ人民ハ
東洋諸國ノ人民ヨリ一層富有ニシテ且權カア
ルカノ理ヲ推考スルニ全ク勉強ノ体裁ニアル
ノニ畢竟日本ニテハ後ニ無益ノ勞ヲ費スナク

ク曾テ成切アルトナシ今新ニ産業ノ道ヲ開ク
ニ非サレハ風俗依然トレテ改新スルコト能ハス
依テ風俗ヲ改新スルニハ牧羊ヨリ善ナルハ無
シ今斯ニ一百万頭ノ羊ヲ牧セハ其使傭スル人
口凡四千員ヲ要スヘシ然ル上猶製毛ノ機車等
ヲ取リ設ニ付新ニ産業ノ道ヲ開クヘシ是即チ
一益ヲ起シテ二益ヲ生スル所以ナリ於是乎窮
民ノ有様モ亦自然ニ善良ニ至リ各其所ヲ得ル
ニ至ラン窮民其所ヲ得レハ萬事随テ改正シ遂
ニ全國ノ富強ヲ増加スルニ至ルヘシ今夫レ日

本ニテ價ノ廉ナルハ人カヨリ廉ナルハナシ我
今荷車ヲ推シ人命ヲ損フヘキ人力車ヲ引或ハ
重キヲ負ヒ遠キニ行クモノニ代ハリ為メニ訴
ル所アラントス願クハ才アリ智アリ報國ノ志
ヲ懷キ奮テ愛民ノ心ヲ存スル在上ノ君子日本
國不測ノ財本ヲ顯ハサハ帝ニ國ヲシテ富強繁
栄ナラシムルノミニ非ス其人亦以テ衆庶ノ恩
人タルヘシ而メ功名曄耀子々孫々永世不朽ニ
傳ハリ其純実神聖ナル豈ニ彼ノ軍ニ臨ミ戦切
ヲ立ツルノ士ト比スルニ違アランヤ誠惶頓首

具状

千八百七十三年

日本東京ニテ

十一月廿四日

ジョー、ダブルネー、ジョンズ

外務卿閣下

拙者儀去十一月廿四日相摸伊豆駿河辺洪荒
未闢ノ土地ニ付一報知ヲ閣下ニ呈シ置キ候処
近頃又道ヲ甲州街道ハ王子ニ取リ甲斐ノ地方
山梨縣下甲府迄^庄旋歴致シタリ此街道ノ通行ス
ル処ハ甚夕山嶽多クシテ小佛峠サダ峠ノ如キ
ハ地脊極テ高ク又其低キ者間々之レアリ今若
シ此等ノ地脊ヲ省キテ地勢ヲ論スル片ハ左右
ニ山脉平行シテ^列街道其間ヲ貫キ東小佛

峠ヨリ西勝沼ニ至リテ止ム但シ勝沼ハ甲州清
秀ナル山谷ノ口ニアル市邑ナリ此兩地間ノ距
離ハ察スルニ十八里許ナルヘシ此街道ノ兩側
ハ皆ナ丘陵ニシテ一種^{カヤ}ト称ヘル草及ヒ貧
小ナル桎樹ノ類悉ク繁茂セリ其山嶽ハ或ハ頂^頂
上ニ平原アル者アリテ其廣狹一ナラス此等ノ
山脉ハ椀子嶮岨峭壁ニシテ牧羊ハ其功ヲ奏セ
スト虽凡野牛ヲ牧養スルニハ最モ的功ナルヘ
シ
希クハ閣下右野牛牧養ノ儀御注意有之度日本

処々山多キノ地方牧羊ニ不便ト虽モ爰ニアン
ゴラ種ト称ヘル野牛ヲ牧養スル片ハ功益必ス
大ナルヘシ日本国中山嶽丘陵寸地モ境埒不毛
ナリ皆ナ草木稠茂セルモノナシ今マ之ニ羊ヲ
放テ或ハ野牛ヲ牧スル片ハ彼ノ艸木ノ空シク
腐解ニ就リ者モ轉シテ莫大ノ利益ヲ起スニ至ル
ヘシ純粹ノアンゴラナル者ハ野牛ノ中ニ最
モ貴重ノ品ニシテ所謂エデアミノルノ中央ニ
アル一地方アンゴラニ産セル野牛ナリ此野牛
ハ大サ平常ノ羊ニ齊シク耳垂レテ長ク脚短ク

軀肥大ナリ毛長クシテ白色恰モ生糸ヲ見ルカ
如シ捲縮シテ長ク垂ル古史ニ就キテ考フルニ
往昔エデアミノルノ人民此毛ヲ以テ幕ク織リ
及ヒ幕ノ紐ヲ作り或ハ行人ノ懸崖絶壁ヲ降ル
ニ繩ヲ用ユル者皆此毛ヲ以テ製スル所ナリ輓
近此毛ヲ以テ製スル布極テ多ク所謂高賣ニモ
ヘールナルモノアルハ即チ是レナリ又此モハ
ール製諸種ノ外別ニ一布アリ其質義ニシテ且
ツ輕シ能ク水氣ヲ防クヘシ此野牛ノ利益タル
ヤ甚タ羊ニ勝ルト虽モ日本ニ於テ後來ノ栄富

ヲ謀ル此二種ノ中一モ欠クヘカラス抑モ牧羊
ハ毛布輸入ヲ外國ニ仰カスシテ人民ノ輕暖ヲ
謀リ農業ヲ利シ農夫ヲ富ス又野牛ハ險阻高燥
人家隔絶ノ地方牧羊ノ行ハレ難キ処ニ利アリ
故ニ此二種ハ土地ノ無用ヲ翻シテ有用ニ皈シ
山嶽峯嶺ノ巔モ終ニ世間ノ幸福ヲ致スニ及フ
ナリ

先年佛國政府此アングラ野牛ノ尤モ貴重スヘ
キニ注目シ之ヲ佛國ニ輸入シ繁殖ノ業ヲ勉メ
シニ其經費三十五万弗ニ及ヘリ然ルニ此舉終

ニ成功ヲ致サス今日ハ一小地方ニ僅々牧養ス
ルノミ是レ佛國ハ氣候ノ適セス風土ノ應セサ
ル所アルニ由ルナリ然レ氏此東方ニテハ氣候
風土其生育ニ必要タルモノ一モ備ハラサルナ
ナシ

此野牛ノ利益タルヤ大ニ勝ルモノ多シ其
繁殖スル下羊ヨリモ速カニシテ一年間ニ児ヲ
産スル下三次其生命ノ長キ下羊ニ三分一ヲ加
フモ又多量ニシテ價頗ル貴シ其性艸ヨリモ控
ノ如キタンニレヲ含メル樹本ヲ好ムモノニシ

テ駿河スバシリノ辺教連繁茂セルヲイル及ヒバル
サムノ類最モ好ム所ナリ

野牛ノ性一処ニ閉塞スルヲ好マス高山ノ頂上
ニモ奔走シ歳寒ヲモ恐レズ他畜類ノ耐ヘサル
所ナリ日本ニテ野牛ヲ牧スルニハ歳寒ノ防禦
法ハ用ユルニ及ハス其肉ニ至リテハ吾人之ヲ
羊肉ニ勝ルトスル者多シ又孩兒ノ母ヲ亡ヒ或
ハ乳汁不足等ノ節此野牛乳ヲ用ヒテ生育殊ニ
宜シ

甲府ノ谷ハ長サ凡ソ八里幅凡ソ二里ナリ山嶽

四塞皆ナ州木稠茂シテ其種一ナラス此等ノ山
嶽ヲ検査スルニハ時節甚タ後レ降雪ノ天氣ト
ナリ駿河嶽地蔵嶽ノ数峯ハ早ク既ニ雪ヲ帯ヒタ
リ
此一遊歴ニハ予三ツノ目的ヲ期セリ甲斐ノ山
国地質ヲ研究スル一ナリ不二山東北面ニ當ル
地方ヲ検査スルニナリ又夏秋ノ間草色ノ青
タリシモ其州歳寒霜雪ニ痛ムヤ否ヤヲ見ル三
ナリ故ニ前度經過ノ地方今又回歴致シタリ
不二山東北ノ面并ニ中山嶽ノ四方曠漠ノ地脊

アリ草ノ性ハ予々前度報知ニ記載セル者ト同
シ此地方並ニ近傍肥沃ノ丘陵ヲ量ルニ其地面
英ノ二十里方以上ナリ然レ近頃ノ破裂ノ爲
ノ土壤ノ深淺肥瘠ニ至リテハ西南面ニ比スレ
ハ劣ルヘシ礧火石猶ヲ未タ全ク分解セスト雖
モ州木ハ繁茂セサル處ナシ
此地方ハ最モ牧羊ニ便ナル者ニシテ其方法宜
シキヲ得ルハ頗ル許多ノ羣數ヲ産スルニ至
ルヘシ

今立界各國ニアル牧羊ノ頭數ヲ左ニ計算ス閣

下御注目 アラント ヲ願フ

佛朗私 三千万頭

アルゲリア 千萬頭

魯西亞 五千四百萬頭

亞米利加聯邦 三千二百萬頭

英國 二千六百三十七萬六千頭

奧 二千七百萬頭

リルウエソン 二千四百萬頭

五耳其 三千二百萬頭

オーストラリア 三千五百萬頭



好望角 千二百萬頭

ニューゼーランド 千五百萬頭

イタウエートル 三千万頭

西班牙 二千万頭

意大利 八百五十萬頭

伯爾義 三百万頭

荷蘭 百五十萬頭

葡萄牙 二百四十一萬七千頭

總計 三億六千三百七十九萬三千頭ナリ

以上各國他牛馬家畜ノ數ハ之ニ準スヘシ此牛

馬ニ至リテハ日本ニアル所ナレハ別ニ辨論セ
スト雖氏爰ニ須要ノ儀ハ今マ若干ノ牡畜ヲ輸
入シテ其種ヲ移シ上品ニ進ムルハ日常有用
ノ牛及ヒ運送兵役ニ用ユル馬貴重ノ數種速ニ
産スルニ至ルヘシ今マ其種ヲ移スノ法日本牝
牛一群ヲ集メ外國産牝牛ヲ之ニ合スルナリ又
日本牝馬一群ニ外國牝馬ヲ合スルナリ牡種何
レモ高價ノ品ニハ及ハス○今此種取ニ適當セ
ル種類ヲ擇ムノ法方如何ハ頗ル經驗ト知識ト
ヲ要スル處ニシテ若シ其擇ミタル牡畜牝畜ニ

比シテ其ノ大小甚シキ不當アルトキハ其産ス
ル處ノ兒体容正シカラサルヘシ牡畜其牝畜ノ
大小ニ相應シテ牝畜ニ欠乏アル處ヲ補フヘシ
牡畜ノ兒ニ感應アルコト牝畜ヨリモ其ノ力大
ナリ故ニ種ヲ移スハ速カニ品位ヲ良好ニ進ム
ルナリ

予遊歴セル洪荒未開ノ地方ヲ驗査スルニモ何
等ノ牡畜最モ種取ニ適當セルカヲ告知致タシ
得シカ為ノ專ラ牛馬ノ種類ニ注意致シタリ日
本ニ於テ牛ニ二種アリ其ノ大ナル種類ハ京都

内外ニ多ク有之其ノ小ナルハ開拓使農場ニ見
ル者或ハ横濱屠牛ノ類之レナリ今此ノ二種ニ
取ル所ノ種牛固ヨリ分別アルヘシ其大ナル者
ニハドルハ種ヲ合セ其小ナル者ニハドウヲ
ン種ヲ合スヘシ馬モ亦タ各地方ノ異ナルニ隨
ヒ大小体容一ナラズ其ノ種取ノ方又必ラス分
別アルナリ

牧羊計算表ニ就キテ考フレハ人烟最トモ稠密
ノ国牧羊最モ盛シナリ伯尔義ハ其ハ版圖僅カ
ニ一万三千里方ニシテ其ノ戸口每方方里ニ四百

五十口ノ比例ナリ然ルニ牧羊ノ數ハ三百万ニ
居ル

牧羊ハ此帝國ニ於テ第一ノ急務タリ蓋シ日本
農民千四百万員概子一二ノ頭數ヲ買ヒ得ルヘ
シ牛馬ハ農務及ヒ運送ニ用エルノ外ハ牧畜ニ
至リテハ農民ノ力ニ及ハサル所ナリ加之牛馬
ハ其生産ノ進ミ神速ナルヲモナク利益モ又小
ナリ牧羊ハ食物ト衣服トヲ給シ牧畜常ニ功益
多シ

伯尔義ハ歐羅巴州中人烟最モ稠密ニシテ不動

産ノ償^價極テ貴キ國ノ一トス然レハ牧畜ノ種類
ニ至リテハ一モ潤澤セサルコトナシ
牧畜ノ費用ハ地價ト工價ノ輕重ニ係ル者ニ
シテ日本ニテハ處々洪荒未開ノ地少カラサレ
ハ牧畜ノ業豈ニ功益ナシトセシヤ
今日本ニ於テ重大ノ事業ト稱スル者ハ廟堂有
司ニアリサレハ衆民ニ於テハ之ヲ擔當セサル
ノ勢ナリ

又一説ニハ全ク私ニ関セラル事業ハ皆テ衆民ノ
興ス所ナリト人民果シテ之ヲ勤ムルヲ能フハ

ハ此理至當ナリ
人民大ニ鼓舞セラレテ開國ノ事業ニ就キ以テ
リースヲ作ルニ至ル其法方固カラサルハ終
始日本ノ農民ヲシテ牧畜ノ業ヲ起サシメス農
務ノ利益ヲ障害スルナリシ
或人ノ説ニ日本後來ノ鴻益ヲ期スルニハ國中
鐵道ノ大成ヲ起スニアリト予カ説ニテハ然ラ
ズ予諸國經歷致シタリシニ日本ノ如キ鐵道大
成ノ事業急ナラサルヲ復タ他國ニナキ所ナリ
物産豊饒ノ山谷ハ概テ官道或ハ海港ノ近傍ニ

アリ而シテ今國中鐵道ヲ大成縱横ストモ物産
海上ノ運漕便利ナルト即チ今日見ルカ如シ其
必然國益ヲ致ス答ハ一二線路ノ短カキモノヲ
起スニアリ此等ノ忠告ハ予カ今般ノ遊歴ニ始
テ發明スル所ニシテ東京ヨリ八王子ニ至ルノ
途中莫大ノ物貨皆テ道上ニテ之ヲ運送シ甲州
豊饒有余ノ物産ハ皆テ此道中ニテ當府ニ輸ス
ヲ目撃マリ予察スルニ此兩地間ニ鐵道ヲ布ク
キハ其途中ノ地方モ利益ヲ受ルト甲州ニ齊シ
此ノ如キ線道ノ短キ者ハ日本ノ銀主ニテ之ヲ

起スノ頗ル容易ナリ斯ク漸ク以テ行フキハ遂
ニハ鐵道大成ニモ至ルヘシ
予山梨縣令並ニ次官二名ノ懇篤信切ヲ蒙リシ
段閣下ヲ經テ敬謝申入度官員庶人ヨリモ懇信
非常ノ待遇ヲ受ケテ予カ遊歴ノ目的ヲ農民
等ニ語リシニ彼等ニ於テモ裨益ヲ受ケン段外
務省ニ對シテ恩謝ヲ陳シ尚牧羊ノ得失ヲ識得
スルノ機會アラシクテ懇望致セシ由ナリ恐惶
謹言

千八百七十四年第一月廿八日

日本東府

日本外務卿閣下

デイドブリュエーン